

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」と答える生徒の割合は77.8%であり、市や県の平均よりやや高くなっている。また「家で、テストで間違えた問題について勉強している」や「家で学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた学習をしている」などの肯定的回答割合が市や県よりも高く、学習に意欲をもつ生徒が多い。

○「人と話すことは楽しい」「誰に対しても思いやりの心をもって接している」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」などの肯定的回答は90%以上でありそれぞれ市や県の平均より高くなっている。

●「普段、1日当たりテレビゲーム(コンピューターゲームや携帯式ゲームなど)を2時間以上していると回答する生徒が26.4%、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを2時間以上していると回答する生徒が21.7%となっている。4時間以上という生徒も5%程度あった。市や県に比べるとゲームもメール等の時間も少なくなっているが、情報モラル教育とあわせて利用時間についての指導も継続していきたい。

●「自分にはよいところがあると思う」に対しては82.6%と市や県よりも高い肯定的回答が見られるものの『自分の行動や発言に自信を持っている』に対しては58.9%と市の平均を下回っている。道徳の授業や各教科での発表の機会を生かし自己肯定感を高める指導に力を入れていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自分の考えを進んで表出する生徒の育成 ・ねらいを共有し、目的をもって学ぶ生徒の育成	・各クラス、特別教室に、話し合い活動用のホワイトボードを置く。 ・小中で協力し合い、「目標づくり」の研修を実施する。	「友達の前で自分の考えを発表することが得意である」の問いに対する肯定的割合が50%未満である。 「授業で扱うノートに学習の目標を書いている」の問いに対する肯定的割合が77.8%であり市や県よりやや低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」の問いに対する肯定的回答は昨年度より9ポイントほど向上したが、市や県の平均より10ポイント低くなっている。	振り返る活動の充実	授業の終わりや単元の最後に、学習課題に対する振り返りを行う時間を確保し、ノートやワークシートにまとめさせたり、発表させたりする活動を継続して行う。